

## 白山の火山活動解説資料（令和4年12月）

気象庁地震火山部  
火山監視・警報センター

31日に白山の山頂付近のやや深部を震源とする地震が一時的に増加しましたが、その他の観測データに火山活動の活発化を示す変化は認められません。  
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

### ○ 活動概況

#### ・ 噴気など表面現象の状況（図1）

白峰監視カメラ（白山山頂の西約12km）による観測では、山頂部に噴気は認められません。

#### ・ 地震や微動の発生状況（図3～4）

31日に白山の山頂付近のやや深部を震源とする地震が一時的に増加しました。31日の地震回数は114回で、地震の規模（マグニチュード）は最大で2.0（暫定値）でした。その後の地震活動は低調に経過しています。山頂付近ごく浅部の地震や火山性微動は観測されていません。

白山ではこれまでもやや深部を震源とする地震の一時的な増加がみられております。今回も最大の規模であったマグニチュード2.0（暫定値）の地震の発生から数時間程度で地震回数は急減少していることから、同様の活動と考えられます。



図1 白山 山頂部の状況  
(12月12日 白峰監視カメラによる)

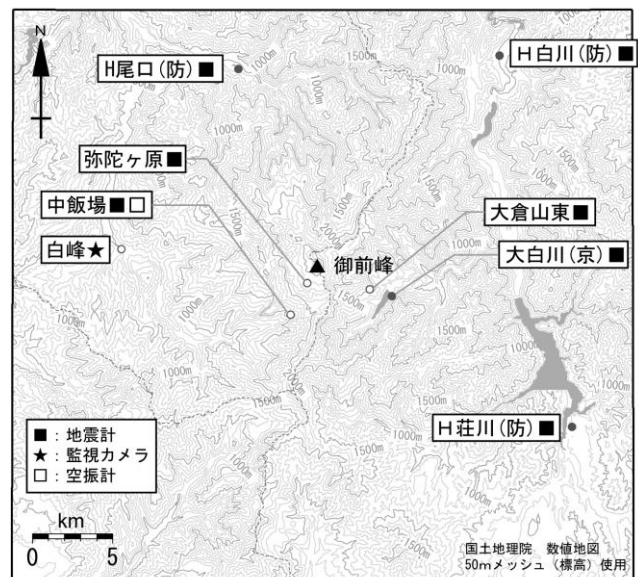


図2 白山 観測点配置図

この火山活動解説資料は気象庁ホームページでも閲覧することができます。

[https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)

次回の火山活動解説資料（令和5年1月分）は令和5年2月8日に発表する予定です。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、東京大学、京都大学、名古屋大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』『数値地図25000（行政界・海岸線）』を使用しています。

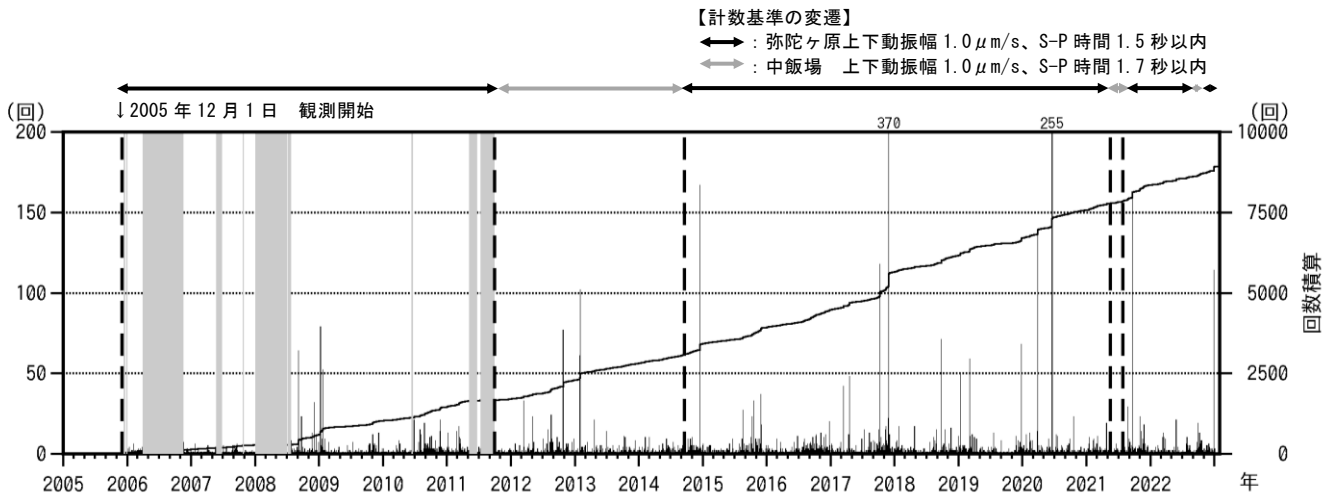


図3 白山 日別地震回数と積算回数（2005年12月1日～2022年12月31日）  
図の灰色部分は機器障害による欠測期間

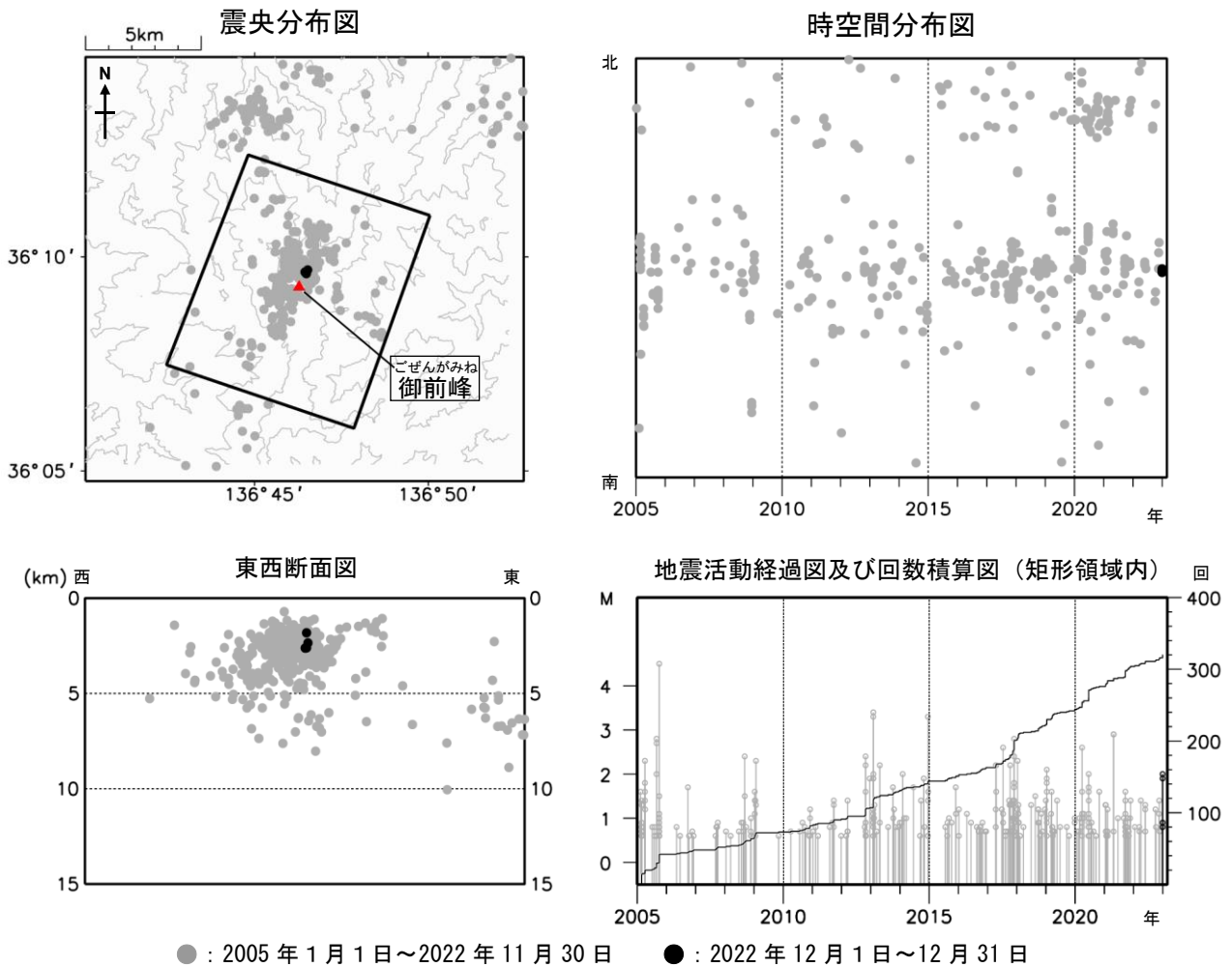


図4 白山 広域地震観測網による山体・周辺の地震活動（2005年1月1日～2022年12月31日）

広域地震観測網により震源決定したもので、深さは全て海面以下として決定しています。  
M（マグニチュード）は地震の規模を表します。M0.6以上の地震を表示しています。  
図中の震源要素は一部暫定値を含んでおり、後日変更することがあります。  
この図では、関係機関の地震波形を一元的に処理し、地震観測点の標高を考慮する等した手法で得られた震源を用いています（ただし、2020年8月以前の地震については火山活動評価のための参考震源です）。  
・31日に増加した地震の震源は、山頂付近の深さ2～3kmに分布し、これまでも地震活動がみられる領域で発生しました。